

入 試 年度	2026 年度	入試時期	I 期入学試験	実施日	2025 年 9 月 17 日
課程	博士前期課程	研究科	文学研究科	専攻・ コース	臨床人間学専攻教 育学専修
入 試 方式	一般入学試験		試験科目	専門科目	
「解答」または「解答例」及び「出題の意図」					
【解答】 or 【解答例（採点時の観点）】					
〔1〕					
出題の意図を踏まえた回答の記述を求めています。					
〔2〕					
（1）学校教育における「隠れたカリキュラム」とは、教科書や学習指導要領に明示された公式のカリキュラムとは異なり、学校生活の中で暗黙のうちに児童・生徒に伝達される価値観、規範、行動様式などを指す。たとえば、チャイムに従って行動すること、授業中に静かに座って教師の指示を待つこと、整列や集団行動を重視すること、校則に従うことなどは、教科として教えられるわけではないが、学校生活を通じて身につけられていく。また、男女の役割分担、成績による序列化、教師の期待の差なども、隠れたカリキュラムの一例である。 隠れたカリキュラムには、肯定的側面と否定的側面がある。肯定的には、時間を守る態度、協調性、責任感、公共性など、社会生活に必要な力を育てる働きがある。掃除当番や係活動、学校行事などを通じて、児童・生徒は他者と協力することや集団の中で役割を果たすことを学ぶ。 一方で、否定的側面として、既存の不平等や差別を再生産する危険がある。たとえば、教師が無意識に性別や家庭環境によって異なる期待をかけると、生徒の自己理解や進路選択に影響を与える可能性がある。また、秩序や同調性が過度に重視されると、子どもの主体性や批判的思考が抑えられることもある。 したがって教育者は、隠れたカリキュラムを学校教育に不可避免的に存在するものとして自覚し、その作用を批判的に点検する必要がある。校則、行事、座席配置、発言機会、評価方法などが、どのような価値観を伝えているのかを問い直すことが重要である。また、児童・生徒が学校のルールや文化について考え、意見を述べる機会を保障することも求められる。隠れたカリキュラムを意識化し、必要に応じて改善していくことが、公正で開かれた学校教育の実現につながる。					
（2）非公開					

【出題の意図】

[1]

教育学専修として、博士前期課程で求められる学術的な知識と論述力を問う問題です。生涯教育と生涯学習という近接概念の差異について定義的な理解だけではなく、その転換をもたらした社会的さらに思想的な背景まで含めて把握したうえで、論理的で一貫性のある記述を求めています。

[2]

(1)

この問題は、受験者が「隠れたカリキュラム」という教育学の基本概念を理解し、具体例を挙げて説明できるかを問うものである。また、その影響を肯定的・否定的の両面から考察できるかも評価することを意図している。

さらに、教育者が学校の日常的な慣習やルールを自覚的に点検し、必要に応じて見直す姿勢を持てるかを問うている。したがって本問は、概念理解、具体例による説明力、多面的な分析力、教育実践への応用力を総合的に評価する問題である。

(2)

非公開

公開できない理由

[2] (2)

試験問題について、著作権の許諾がとれていないため、解答または解答例および出題意図についても、公開しない。

合否判定の方法及び基準

入学試験は文学研究科のアドミッションポリシーに基づき、これを満たす学生を募集することを目的に実施しています。

合否判定については、本研究科のアドミッションポリシーを満たすことを、総合的な視点により合否を判断しております。